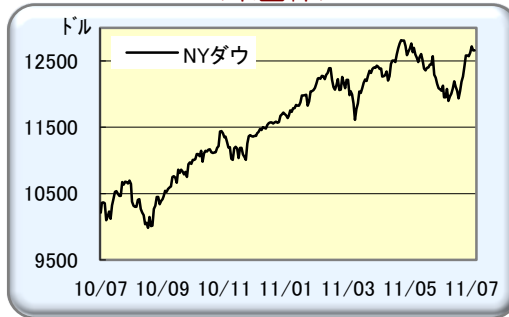


1. 日米株式と円／ドルの推移

<日本株>



<米国株>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

| | 単位 | 2010/12/31 | 2011/6/30 | 2011/7/8 | 過去3年高値 | | 過去3年安値 | |
|------|----|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|------------|
| | | (前年末) | (前月末) | (前週末) | 水準 | 日付 | 水準 | 日付 |
| 日経平均 | 円 | 10,228.92 | 9,816.09 | 10,137.73 | 13,603.31 | 2008/7/24 | 6,994.90 | 2008/10/28 |
| NYダウ | ドル | 11,577.51 | 12,414.34 | 12,657.20 | 12,876.00 | 2011/5/2 | 6,469.95 | 2009/3/6 |
| 円/ドル | 円 | 81.12 | 80.56 | 80.64 | 110.66 | 2008/8/15 | 76.25 | 2011/3/17 |

当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

日経平均は一時10,200円台を回復し、東日本大震災後の高値を更新。

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+269.66円(+2.73%)、TOPIXが+20.48ポイント(+2.40%)と大きく上昇し、日経平均は一時10,200円台を回復しました。業種別(東証33業種)にみると、その他製品を筆頭に全業種が上昇する展開となりました。週明け4日の日本株市場は、先々週末、米国において発表されたISM製造業景況指数が事前予想を上回る内容となったことを受けて米国株市場が大幅な上昇をみせた流れを受け継ぎ、大きく上昇して始まった後、終日高値圏で推移しました。また、日経平均は一時5月2日以来となる10,000円台を回復する場面もみられました。その後週末にかけても、政府が原子力発電所に対するストレステスト(耐性調査)の実施を発表したことにより全国的な電力不足の長期化が懸念され、電力株中心に市場全体が調整する局面はあったものの、①米国において、ADP雇用統計が事前予想を大幅に上回る内容となったことを受けて週末に発表される雇用統計に対する期待感が高まり、米国株市場が一段高の展開となったこと、②国内においても、機械受注や景気ウォッチャー調査等大震災後の急激な落ち込みからの改善を示す経済指標の発表が相次いだことなどから堅調に推移しました。こうした中、日経平均は一時10,200円台を回復し、5月2日につけた東日本大震災後の高値を更新しました。

3. 今週の主な予定

| 日程 | 曜日 | 国・地域 | 項目 | 前回 |
|-------|-----|------|---|------------|
| 7月11日 | Mon | 日本 | 日本銀行、政策委員会・金融政策決定会合(12日まで) 工作機械受注(前年比) | 6月 34.0% |
| 7月12日 | Tue | 日本 | 企業物価指数(国内)(前年比) | 6月 2.2% |
| | | 米国 | 貿易収支 | 5月 -437億ドル |
| 7月13日 | Wed | 中国 | 国内総生産(実質GDP)(前年比) | 4-6月期 9.7% |
| | | 米国 | バーナンキFRB議長議会証言 | |
| 7月14日 | Thu | 米国 | 生産者物価指数(除食品・エネルギー)(前年比) | 6月 2.1% |
| | | 米国 | 小売売上高(除自動車)(前月比) | 6月 0.3% |
| 7月15日 | Fri | 米国 | 消費者物価指数(除食品・エネルギー)(前年比) | 6月 1.5% |
| | | | ニューヨーク連銀製造業景況指数 | 7月 -7.79 |
| | | | 鉱工業生産(前月比) | 6月 0.1% |
| | | | ミシガン大学消費者信頼感指数 | 7月 71.5 |

| 決算発表予定 他 | 日本 | 米国 |
|----------|-------------------------------|--|
| | 決算発表(6月通期) : 7/14 ファーストリテイリング | 決算発表(4-6月期) : 7/11 アルコア 7/14 JPMorgan・チェース・グーグル 7/15 シティグループ |

当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

7月のSQ(特別清算指数)値である10,225.82円が当面の高値に。予想を大きく下回った米国の雇用統計やテクニカル的な過熱感から週初は窓埋めを模索、週後半は米国の経済指標や企業業績に一喜一憂する展開を想定する。

今週の日本株市場は、先週末に発表された米国の雇用統計が市場予想を大きく下回る一方、中国のCPIは予想を上回ったことに加え、25日の騰落レシオ(8日現在138.96%、120%以上で過熱)、14日のRSI(同86.53%、同70%以上)などのテクニカル的な警戒感から、週初は先週初に開けた窓(日経平均で9,900円)を埋める展開を想定しています。週後半は米国の経済指標や企業業績に一喜一憂すると予想しますが、トレーディング益が大幅に減少したと見込まれる大手銀行の決算発表には注意が必要と考えています。なお、7月のSQ(特別清算指数)値は10,225.82円となりましたが、これは当日のザラバにない値段である、いわゆる「幻のSQ値」のため、経験則上は当面の高値になる可能性が高いとみています。経済指標では、13日に発表される中国の4-6月期の国内総生産(実質GDP)や、米国では12日の貿易収支、14日の小売売上高、15日のニューヨーク連銀製造業景況指数、鉱工業生産、日本では11日の工作機械受注などが、会議日程等では11・12日の日銀の金融政策決定会合、13日のバーナンキFRB(米連邦準備理事会)議長の議会証言などが重要と考えています。また、米国の4-6月期の決算発表では、11日に発表されるアルコアや14日のJPモルガン・チェース、グーグル、15日のシティグループに、日本では14日のファーストリテイリングに注目しています。